

令和4年度 第2回長野市観光振興審議会 会議録

日 時 令和5年3月30日(木) 午前10時から午前11時30分まで
場 所 市役所会議室202(第二庁舎10階)
出席者 委 員 14人
事務局 9人

1 開 会

2 商工観光部長挨拶(代理商工観光部観光振興課長)

昨年は善光寺御開帳、また諏訪の御柱と長野県にとっては非常に大きなイベントがあった。お陰様で御開帳は前回の707万人に近づく636万人と、多くの方にお越しいただいた。

その中でコロナ関係もあり、アクセルを踏むべきか、ブレーキをかけた方がいいのか非常に悩むところであったが、皆様の意見に耳を傾け、しっかりとやれることを進めた1年となった。また、自然を楽しむ、密にならないようなアクティビティを工夫したコンテンツの開発にも取り組んできたので、後程説明したい。

国内では全国旅行支援が動き出し、観光客の増加に繋がった。

また、10月から規制が解除されたインバウンドも、この冬は多くの外国の方々長野市、また日本に訪れ、観光再開の兆しが見えてきたと非常にうれしく思う。

本日は今年度実施した内容について議論いただき、また次年度以降に向かう提案をする中で、皆様方の知恵をお借りしたいと思う。よろしく申し上げます。

3 会長挨拶

観光業界は、新型コロナウイルス感染症により令和2年から結局令和5年までの足かけ4年、実際に多大な影響を受け、非常に厳しい状況であった。

まだ終息した訳でないが、昨年10月のビザなし渡航の解禁など規制が緩和され、政府の助成等もあり経済や観光活動は、コロナ前の状況に戻つつある。ようやく長いトンネルの出口が見えてきたところだ。

さて、今年度は新しい長野市観光振興計画がスタートして、1年目となる。新たな観光振興計画では四つの重点政策に基づき、毎年度、各重点施策において何を実施するのかを年次計画にまとめている。また計画の進捗状況及び改善については、この審議会において実施される。

本日は、令和4年度年次計画の進捗状況、令和5年度の年次計画案について審議する。委員の方々には、各事業の取り組み内容や実績、今後の進め方について、それぞれ専門の立場から忌憚のないご意見をいただきたい。皆様のご協力のもと観光を通じた見直しの活性化

が図られるよう、努めたいと思う。よろしくお願いします。

4 議事

- (1) 長野市観光振興計画 令和4年度年次事業計画の進捗状況について
- (2) 長野市観光振興計画 令和5年度年次事業計画（案）について

【質疑応答】

- (1) 長野市観光振興計画 令和4年度年次事業計画の進捗状況について

A委員：政策4のMa a Sの関係について。

今年度2022年度JRでは「旅する北信濃」を実施、昨年10月から第2期として再開、次年度からは通年で更に拡大をして進めていく。お客様が便利に観光するためには、このような仕組み、いかにストレスなく利用できるかが非常に肝要と考える。なお「旅する北信濃」は冬のD i g i田甲子園で準優勝となり3月の上旬に表彰されたことを報告する。

事務局：御開帳を契機にJRさんを中心に北信エリアで様々な企業をまとめ、シームレスに旅行ができるMa a S体制ができたと考える。継続ということで将来的にはインバウンド対応もしていきたい。今後参加する事業者が増えることに期待している。また、交通政策のひとつでS u i c a導入の動きもある。観光客にとって便利、市民の足としても使いやすい、そういうグローバルな広い目線で色々仕組みを作り上げていくきっかけになった。

B委員：このMa a Sの取り組みを市民がどのくらい知っているのかも重要。

観光客に向けてだけでなく、これを市民が共有し、ともに観光客を迎えるという姿勢ができれば一番いい。今後はそれを踏まえ広げるべきである。

事務局：長野市の観光は善光寺・戸隠・松代が中心という傾向がある。今まではその有名な観光スポットだけを売っていた。これからは様々な実体験や生活、中山間地域などに目を向け、善光寺を支えている周辺の部分がより売れること、これを市民の皆様にも訴えなければならない。

そしてこの両方に支えられ、観光客が「長野市は素晴らしい」、市民は自分が暮らしている「長野市を紹介したい」と良さを伝えたいことが肝心。生活している市民の皆様を大切にすることが大前提となる。

C委員：市民に直接何か呼びかける手だてはあるのか。

事務局：「広報ながの」が一番身近な発信となる。例えば最新号では6つのトレッキングコースなど、身近なところから長野市の良さを紹介している。

「おでかけ通信ながの」は市有施設の割引券も掲載し、支所や小学校に配布している。市有施設の利用啓発も含め、長野市の良さを地道に発信しているが、まだまだPRが足りない点もある。

D委員：これまでは今後の予定を尋ねるとはっきり行先が決まっている方が多かったが、今回の御開帳時の特徴は決めていない人が多いということ。

次の行先、徒歩圏内の観光場所について相談される。まず善光寺に行く、それ以外の所にも行きたいが来てから考える、地元の人に聞いて決める、そういう自由な形に旅は変わってきたようだ。少し離れた場所の提案もできるEバイクが簡単に使えるようになると紹介もしやすい。

事務局：御開帳期間中はドコモが長野駅前のホテルメトロポリタンの前でレンタル自転車サービスを実施した。

それを見て我々もニーズがあると判断した。この後、令和5年度の新規事業の説明をするが、駅前に自転車の設置計画がある。善光寺にもと考えている。

インバウンドの方で長野駅から松代まで自転車で行かれる方もいるそうだ。バスで行くより自転車だと、そんな選択もあるとわかった。中山間地である戸隠、飯綱、鬼無里でもEバイクに取り組んでいる。この地域との連携も必要である。

(2) 長野市観光振興計画 令和5年度年次事業計画(案)について

E委員：旅行業界にとっても特別感を出したツアーは、この2、3年非常に満足度が高いとの統計データがある。「深旅」は、まさしく特別感を持って、長野市を巡るという意味では非常に効果的。だが、どちらかと言えば個人向けの企画。このような企画で満足度が高いと、リピーターに繋がる。本来見ることができないものを特別に見ることができるツアーは、今後どんどん拡大していくと思う。ぜひ積極的に新規事業として採用して欲しい。

ただ一方で、団体のお客様をどう伸ばすかが課題となる。御開帳でもバス利用の団体客の宿泊先は、他県で長野市ではない。また、特に人数の多いグループが利用できる昼食の場所が無い。長野市らしい場所で長野市らしいものを食べて欲しいが厳しい。今はコロナの影響で分散化、少人数化になっているが、食べる場所はひとつの起爆剤、ある程度収容可能な民間の昼食場所は必要と考える。

事務局：コロナで個人旅行者が大分増えたが、これからまた戻ってくる団体も視野に入れて考えていきたい。とにかく多様な方法で長野市滞在時間を延ばす工夫が重要である。

議長：昔みたいな団体専門は味気ないが、大門のENYAさんなどは7、80人入る、一般的な食事もある。だから、いかにも団体とザーッと食事を並べているよりは、雰囲気が良い。

事務局：観光振興課はビッグハット・Mウェーブ、温泉施設も所有している。りんごの湯は一階が宴会場で、そこは提供できるし、対応できそうだ。

F委員：御開帳期間中も多くの方を案内した。善光寺は何度か訪れているので、参拝後、おすすめの場所はあるかとの問い合わせが結構ある。お朝事の体験を紹介すると、宿泊して翌日の朝ゆっくりするという方も増えた。

善光寺宿坊のご本尊は個人で見るのは難しい。いくつかの坊と協力し、ご本尊参拝後、御朱印をいただく「お彼岸スペシャル」を企画すると1日限定10名の募集に15名の申し込みがある日もあった。これからは宿泊者に向けたイベントが必要ではないか。

G委員：松代大本営跡は歴史価値、観光価値として大きいなものであることに間違いない。市として、観光振興課としての見解を聞きたい。

事務局：見学ができるようになって、年数は経つが、今のところは観光施設という対応をしている。コロナ自粛期間、見学者が少なくなった時があったが、今年度はやや盛り返してきた。学生の平和学習が多い。一般の観光客の方からを含め、問い合わせも多くあり、その際地域のガイド団体などを紹介している。

今の状況は観光的な部分での戦争の遺跡、多くの方に見学をしてもらいたいと対応している。

G委員：コロナで長野エリアは修学旅行が増えた。教育的な価値は非常に大きいと思う。判断は非常に難しいが、今の状況はもったいないといつも思う。今後の課題として検討して欲しい。

事務局：観光振興課の所管であり、今はしっかり保存をしながら、パンフレットやガイドブックを作成して周知をしている、そんな現状である。

H委員：まもなく溪流釣りシーズンを迎える。この計画を見て、釣りは観光コンテンツとして相性も良いのではと提案したい。

事務局：どこで釣れるのか、安心安全の配慮等の問題もあるが、色々知らないと調整もできない。パンフレットなどでも観光協会と連携できるか、今後勉強していきたい。

I委員：信州新町観光協会の中では釣りの話題が出ている。2、3年前には多くの釣り客が訪れていた。釣り券を販売している店には旗も出ている。さぎり荘もあり、ろうかく湖では屋形船、犀川でのサップ&カヤック事業もある。

コロナも落ち着き、しかも屋外で楽しめるものばかり。これからのシーズンに向け、信州新町もっと目を向けて欲しい。

J委員：新規事業の中、一番の注目は川中島の関係である。予算も他の事業とは違い、ここに重点的に力を入れたいことが伝わるが、すでに立派な市立博物館があるにもかかわらず、インターを降りて古戦場公園の前を通ると、あまり利用されていないのではと不安になる。他の部署とも連携もあるかと思うが、どんな構想か意気込みを聞きたい。

事務局：これはデジタル田園都市国家構想で、新産業創造推進局が主となりデジタルの技術で市民の生活や観光客を豊かにするというもの。一番は文化財をアーカイブすること。歴史ある大切なものを3D画像など今のデジタル技術を使ってしっかり後世に残す、ただ保存だけで無く活用するには観光振興課だというのが話の発端である。

川中島古戦場は教科書にも載っているが現地に来ると残念と言われる観光スポット。そこで仮想空間やデジタル技術を使って楽しんでもらうのが時代に合っている

と考え企画をした。これを機に文化財、歴史的に眠っているものに興味持って長野市にお越しいただくのが目的である。

J委員：他県に行くと川中島の合戦は、かなり知名度がある。歴史的な観点からも何故長野市は取り上げないのか不思議だった。

すぐ近くにいろは堂のOYAKIファームが出来たが、遺跡である「胴合橋」も綺麗に整備されている。とても良い位置関係である。その先、松代の真田宝物館に甲冑を見に足を延ばすと広範囲の観光に結び付く。今後に大変期待している。

事務局：川中島古戦場公園の管轄は公園緑地課。データに関するもの・宝物の所有が文化財課、博物館、宝物館。それを観光振興課がPRする。その3つが一体となってこの事業を進めている。

議 長：善光寺の絵解きをデジタル構想に入れてもいいのでは。

D委員：大勸進には、武田・上杉ご両人の位牌がある。子孫の方が両方いらっしやっって一緒にお参りされたこともあったように聞いている。真田のお殿様にも来ていただけたら歴史ロマンを感じる。武将ブーム関連で面白いことができるかもしれない。

事務局：まさにPR不足である。関連性を持たせた周知をしていかなければならない。

「川中島合戦」というEバイクのコースを新しく造成した。松代城跡を出発して古戦場～典厩寺～勘助の墓～阿弥陀堂へ行くコース。勘助のお墓は少し離れているが、季節のいい時は土手沿いの道をEバイクで走ると快適、令和5年度は積極的に広報したい。

K委員：今、長野市では林間学校はやっているのか。例えば中山間地の問題だが、山里の方では休耕田耕作放棄地がすごく増えている。そこを、林間学校の一環で生徒さんに耕してもらったり出来ないか。蕎麦が一番楽だと思うが、通年型の林間学校スタイルなら年3回、種撒きと手入れと収穫という形の楽しみ方が長野だからこそできる。宿泊は廃校を活用する等、今、山里で困っているもの、余っているものをうまく活用して向き合ったらどうか。

事務局：大岡地区に市営のパノラマ観光ホテルがある。そこでは教育委員会の学校教育課と連携し、高原学校の生徒さんを迎えている。今年度は45校、3,000人程が宿泊している。すぐ近くの聖山も登山に適しているし、240畳の部屋で工作体験、マレットゴルフ場も活用している。来年度も既に45校の予約が入っている状況だ。

～ 事務局説明資料の内容のとおり、進めていくことが了承された。～

5 その他

6 閉 会